



## はじめに

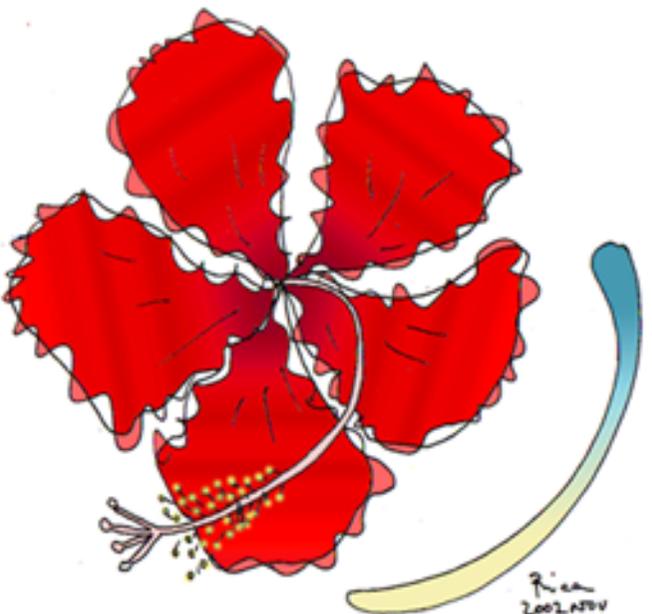
バリ島での出来事や、日常の身近な品々を、コピー用紙の上に書きとめた『ぶうげんびりあ』。

下手なイラストと、つたない文ではありますが、コツコツと積み重ねてきた作品集です。

各ページのタイトルは、最近新しい趣味に加わった、自由率の俳句風になっています。

たくさんバリ好きな方に楽しんでいただけるといいなと思います。

絵と文と俳句と電子本作成 Rica Ojara



もくじ

しよくじ

今日もよき日のビンタン ビール  
ボラレコップブルース  
やかんの音ひゆるるるん 夜に混じってく  
おまけのコップを集めてゐる  
トラビカを飲んでゐる  
魚を乗せる皿を買ったよ  
自称ロンボク焼きのバリの壺  
冷蔵庫を開けたらケーキがあつたよ  
一晚ふやけたしなちくコトコト  
しよっぱすぎのラーメンにも一筋の光  
スパゲティはデュラム・セモリナ  
自炊の友はガロン水  
熟れるバナナの断末魔  
クリームシチュー食べる人も無く  
卵のロシアンルーレット  
お粥 バナナの葉で包んでくれたよ

しよくぶつ

バナナの葉 包丁で落としている  
何もかも伸びきって青空  
パイヤの断面 梅や星  
見上げれば広がっている神様の木  
朝摘みの薔薇青い瓶  
ひどく鼻毛のはみ出た鉢売りであつたよ  
偽ガーデナーと呼ばれてゐる  
喰えるのかと聞かれたオレンジの花  
バリにもあるおしろいばなのたね  
ぶうげんびりあひらひらおちて  
サボテンの小宇宙

✚ せいかつ ✚

オットはカメラを取りに行つた赤い月  
デジタルカメラを持ち歩いてゐる  
お日様まぶしい夕方のバトミントン  
雨の日に子が届けてくれたよ  
アイスクリームの音空に溶けて  
誤字だらけの看板を見つめてゐる  
閉まつたままの店がポッと開いていた  
雨上がりの夜空に二号で縫つてゐる  
五百ルピアの糸で服を作つてゐるよ  
ハサミよどこへ行つた  
散髪も自分でしてゐるよ  
何もすることのないまた一日  
南方、『水難に注意』のお知らせあり  
水漏れの修理もできるやふになる暮らし  
革靴 出稼ぎ小僧のささやかな夢  
ゴミ箱のフタ また壊されている  
洗濯物が暴れている  
冷たい風が雨を運んでくる  
天敵は雷雨なり  
湯につかりザワワとする夕焼け  
朝焼けスツと朝になる 夕焼けそつと夜になる  
椅子の沢山あるカフェ 風に吹かれる  
客の居ない宿のプールで泳いでゐる

✚ むし ✚

百個持つてきた虫刺されのクスリ  
セミの声 風が届けてくれた  
蜻蛉の羽根を運ぶ蟻の忙しさよ  
リスが飛び降りてきた  
ブタが見送つている  
蜂鳥がダンスをしているよ  
蠅取り蜘蛛は失敗した

ねこ

鈴の音を鳴らして待つている  
魚に復習される猫の工サ造り  
日本から来た猫がクシヤミをしているよ  
短くカットされる暑い午後  
ピンク色の首輪をつけたよ  
ネズミさま、とおりゃんせ  
少し驚いたやふな顔をしてまた眠る  
シロはもう来ない  
迷いこんで住みついてしまったよ  
猫どうしまあるくみつめあう  
俳句ノートの上で眠る  
歳時記を開ひてまた閉じて  
猫と待つて居る  
猫を描いている

アトリエ

風の無い日アトリエから空を望む  
愚作に埋もれるアトリエの解剖図  
時には鳥も来てくれる庭の木のこと  
バリに来たフランスの友人たち  
動き始めた祝いの時計  
バリ人の愚痴を聞き描く愚作  
朝の巡回が三度の日  
万年筆のインクを墨にして描いてゐる  
コピー用紙に向かつてゐる  
友のクレヨンと今も旅しているよ  
消えかけた蛍光灯まだ頑張っている  
氷入りコピー紙 コピー用紙  
ハンコを作ると言つてはまた散らかしてゐる

## セニワテイ

無料広告誌を読んでゐる  
ヌードモデルの恥ぢらひ  
夫婦して画家で、画廊も経営しているよ  
ポーレイン 小さな家の小さな個展  
女主人のため息と涙池  
美人占い師に決めてもらふバリライフ  
画材を売る店と親しくなつたよ  
もう一つの画材店にも顔売つてゐる  
失敗、裏にも描いてゐる  
画家の悩みをつま先  
ケイテイを描いてゐる  
どんな線にも思いが詰まっている  
ヌードモデルに絵をねだられてゐる  
太陽のようなお顔であつたよ  
モディリアーニの絵を真似てゐる  
ヌードの絵を飾つてゐる  
いつまでも完成しない絵に色を塗つてゐる

あとがき

マンガーの苗が伸びるやふに  
俳句をエッセイのタイトルに使つてゐるよ

お礼

一度死んだ男に頼んでゐる  
読者様へ、いつもありがとう。

作者

謎だらけ オジャラのプロフィール

追記

価格の高騰について

## 今日もよき日のビントアンビール

ビントアン党の人というのは、結構多い。バリ島といえば、ビントアンビールと言っても過言ではないからだ。『バリハイ』とか、『アンカー』などは邪道である。まれにいますけどね、『オレは、バリハイの方が好き』なんて、バリ通ぶっているオヤジ。そんな奴を見かけると、『ああ、味が解らないのか』などと、ビントアン党は冷ややかな眼差しで遠くを見る。内心は、間違いなく、『あいつらとは、一緒に飲れないぜ』と思っているのである。



自由律俳句の勉強をしているとき、種田山頭火という俳人の、『けさもよきひの星一つ』という句に出会う。『ああ、これが俳句だ。』と感激して、

パクったのがこの句。パクリはイカンと思いつつ、ビントアンファンとしては、この句ははずせないっす。まあ、死後五〇年も経過して著作権の問題もクリアしていることだし、どーしても、入れさせて頂きます。え？全然似ていない？いいえ、これはパクリです。キッパリ！

ビントアンファンというのは、このように、どつでもいいことに、こだわってしまうのだった。

## パイパイの断面 梅や星

パイパイというのは、日本では、超高い果物である。バリ島のパイパイは、日本で売っているお高い品と比べて、巨大である。この絵のパイパイだって、3キロはあり、大きさもラグビーボールよりも大きいのだ。

しかしながら、パイパイは、マンゴーに比べて大味で、甘味もイマイチ。

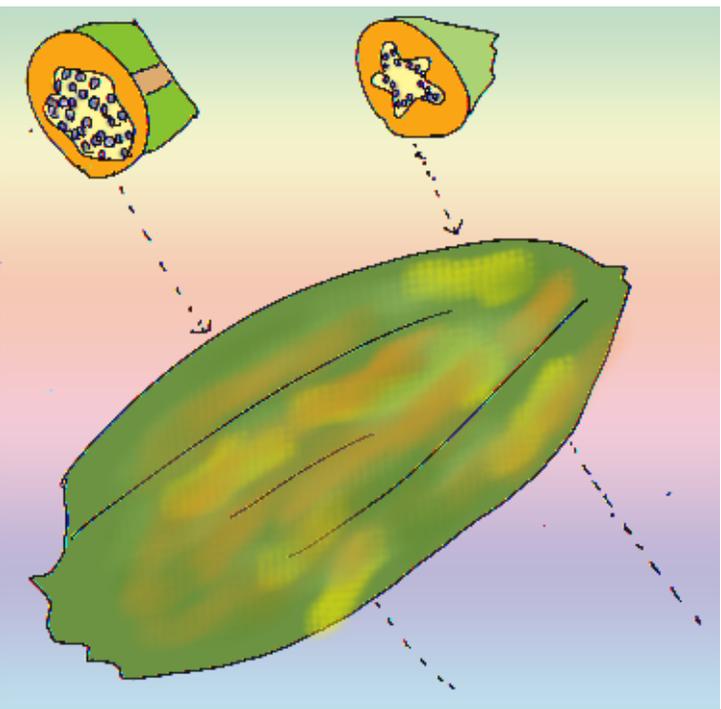
食べても味気ない気持ちでイッパイになる。

いつもは、朝食のジュースに、マンゴーを利用しているのだが、さすがのバリ島でも、マンゴーが回るの時期というのは限られている。

マンゴーが果物売り場から消え去った後、朝食代わりに飲んでいるフルーツジュースに、どのフルーツを入れるのかという会議は、連日のように行われた。スイカ、アボガド、メロン、リンゴ、ニンジン。

色々なフルーツが、バナナと混ぜられて、試飲される。結局、安くて、ポリウムがあるのに、大してジュースの味に影響しないパイパイが選ばれる事になった。値段は、スーパーマーケット価格で、3キロで五千ルピア程度。

これを、5分の一程度の輪切りにして、皮を剥き、タネを取る。バナナ、ヨーグルト、杏ジュース、氷、水を混ぜてミキサーにかける。



バナナだけのジュースと比較すると、『まあ、食物繊維は取ったぞ』という気にはなる。しかしながら、パイヤの存在というのは、ミジンも感じられないこともしばしばである。味的には、存在感の無いフルーツだなあ。

関係ないが、パイヤは、輪切りにすると、断面が面白い。中央は、空洞になっていて、クロ胡椒のようなタネがビッチリとついているのだが、その空洞の形が、星型や梅型になっているのである。

正確に書くと、小さい実の頃は、星型なのだが、実がどんどんと大きくなってくると、星の角も広がり、梅型になってゆくという感じである。最初に見たときには、ちと感激した。

南国のフルーツというのは、どのフルーツを食べる時にも、タネや、実の形や色が、想像もつかない形をしていて、なんかドキドキさせられる。

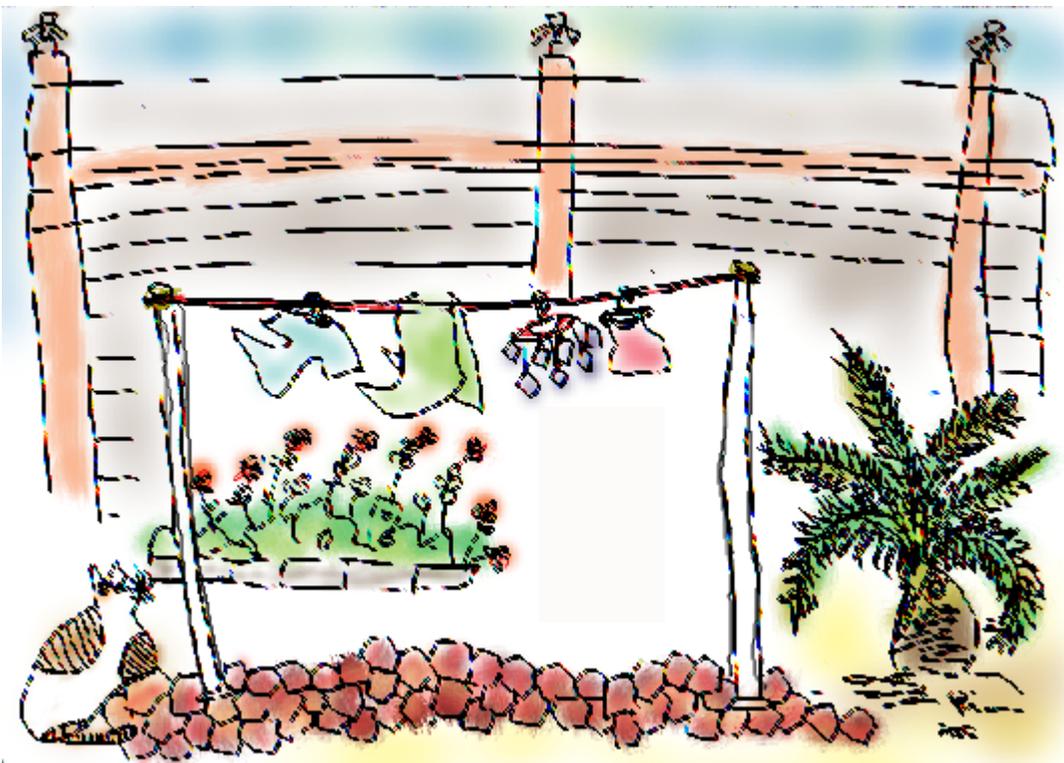
そして、パサルなどを物色していると、実は、まだ食べた事の無い、名前も知らないフルーツも沢山あるのということに、また驚かされるのである。

## 洗濯物が暴れている

風の強い日というのは、風の音で、やけにうるさい。日本にいた時には、地下鉄に乗っているか、ビルの中にいるかのどちらかだ。風に吹かれることも無い。第一、風が吹いたからといって、音を立てる植物が無いのである。風が吹くと、こんなふうに、『ザワザワ』と音を立てるということすら知らなかった。動物のハシくれとして、恥ずかしい限りである。

遅ればせながら、自然の中で生活してみると、風は音を立てていて、洗濯物は暴れている。乾燥機に頼った生活では、経験できない、貴重な体験だ。

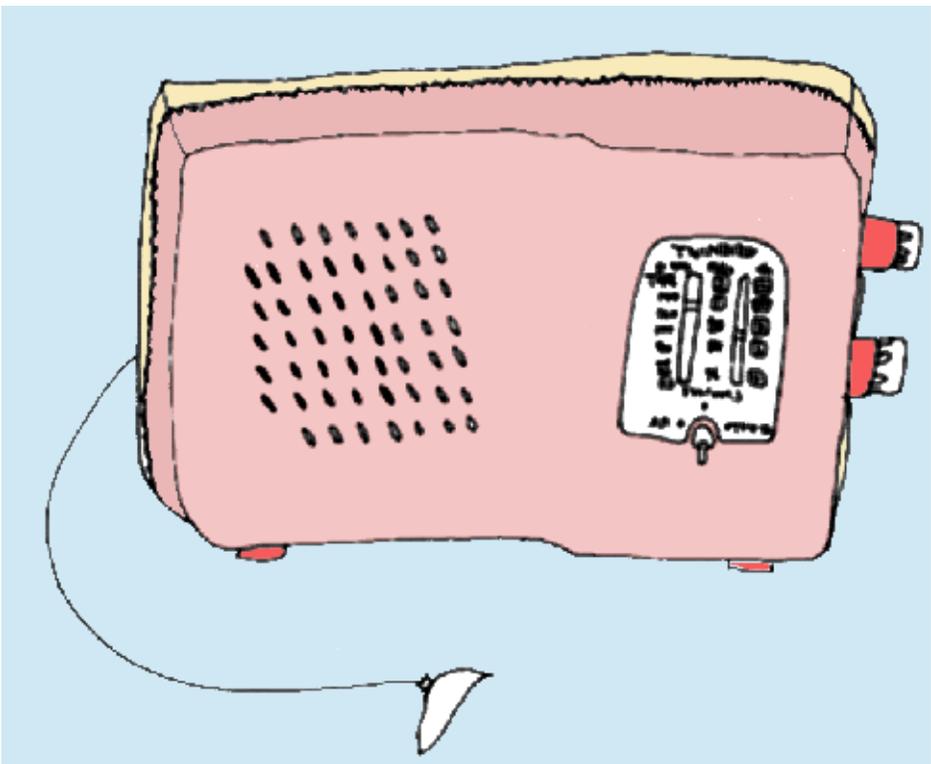
最近、やけに、ガーデニングが流行っているが、植物の持つ自然の力に、知らぬ間に、癒されているのに違いない。バりにハマッてしまった人も、バりに癒されているに違いない。



## バリ人の愚痴を聞きながら描く愚作

日本の家にいたとき、風呂に入る時には、いつもラヂオを聞くことにしていた。オフロラヂオは二個買っていたので、未使用の方をバリに持って行くことにした。

アンテナとしてついている吸盤をタイルや窓ガラスに貼り付け、電波をキャッチする方式の品。結局風呂には置く場所が無いので、このラヂオはアトリエで使われる事になった。



『アユ』とか『ニヨマン』などの、バリではお馴染みの名前を名乗り、何事かを訴えている。アタシは『ああ、バリ人が、また愚痴ってるよ』などと思いつつ、愚作を描き続けているのである。バリ人の『デンパサー渋滞情報』と、同じくらい、どうでもいい絵がまた一枚出来上がった。

バリでは、爽やかな午前中に、絵を描くことが多い。この時間のバリのFMラヂオ番組は、デイスクジヨツキーの若造君が、電話を掛けて来たバリ人に、最近起こった出来事についての感想を聞いたりする、よくある奴である。電話を掛けて来たバリ人は、

## ヌードモデルの恥ぢらひ

無料の情報誌で、女性アーティストによる、ヌードデッサンが毎週行われていることを知る。女性だけのグループなら、チャラチャラしたジゴロ野郎に声を掛けられて、嫌な思いをすることもないだろう。とりあえず、一回行ってみることにする。目的地には何とかたどり着き、ワクワクしながら扉を開ける。

扉の奥では、いきなりドーンと、裸の女。ヌードモデルながら、大事な所は手で隠している。やはり、モデルであっても恥じらいを忘れてはいけない。なかなか、そういうしぐさも人間らしいなどと思ってしまうのだった。

絵を描きに来ていた白人オババは、一斉にアタシを見る。アタシは、ジャパニーズスマイルでオババの視線に対抗。

リーダーらしき人が、『紙と何か描くものを持ってきたか』と尋ねて来る。とりあえず、紙と筆ペンを差し出すと『オーケー』と言って、また、デッサンに戻るのだった。

空いている場所に座り、アタシも絵を描き始める。アタシは、絵を習った事が無いので、当然に、ヌードを描くのも初めてだった。うーむ。

足が入らない。腕の半分もはみ出してしまう。絵がデカ過ぎるのだ。まあいい。初めてだから、こんなもんだろう。

その後、数回通ったが、雨季に入り、行くのを辞めてしまふのだった。





読者様へ、いつもありがとうございます。

『Rica's Bar』のファンの皆様、いつもご愛読、応援ありがとうございます。

一九九七年のゴールデンウィーク明け頃よりスタートした私のホームページも、お陰さまで、五周年を迎えることができました。

コンテンツの作成は、読者様の毎日のアクセスや、応援があつたからこそ、続けてこれたのだと思わされます。日々のアクセス、感謝します。

バリ島に移住して二年半。  
観光には役立たない情報ばかりですが、私なりのバリライフをまとめてみました。

私の文や絵が好きという方、バリの事、もっと沢山知りたいという方。『ぶっげんびりあ』もぜひ、一読下さい。ちよこつとバリな気持ちに浸ることができるかもしれません。

それでは、これからも、『Rica's Bar』を『愛顧』下さいますよう、よろしく願います。

また、ホームページは、バリ島に来るご家族やお友達にも、ぜひご紹介下さい。

アクセス、心よりお待ち申し上げます。

二〇〇二年五月

著者・イラスト・俳句 おじゃらりか